

2011 年度コレクション展

特集展示

「おひろめのあいさつ～新収蔵品紹介」

収蔵するたび ^{ともだち} 作品ふえるね。

<同時開催> 小企画

「美術の中のかたち 手で見える造形 榊本佳子展 やきもの^{へんげ}の変化」



ヤノベケンジ (FERRIS WHEEL) 2007年 Photo by Seiji Toyonaga
©Kenji Yanobe Photo courtesy YAMAMOTO GENDAI

趣旨

兵庫県立美術館では、前身の兵庫県立近代美術館時代より40年近く作品収集を行い、収蔵された作品数は8000点以上に及びます。当館1階と2階の展示室で開催される「コレクション展」では、年3度の展示替えを行いながら、コレクションの名品を様々なテーマに分けて紹介しています。

この度の2011年度コレクション展では、特集展示として「おひろめのあいさつ～新収蔵品紹介」と題し、今回新たに当館に所蔵された作品を特集します。1階常設展示室1、2、3を使い、新収蔵品とそれらと関係のある既存の作品を一緒にご覧いただけます。ますます充実していく当館の多彩なコレクションの一端に触れていただければ幸いです。

また、今回のコレクション展では、同時開催の小企画として「美術の中のかたち 手で見える造形 榊本佳子展」を常設展示室4にて開催します。そちらもあわせてご鑑賞ください。

会期等:平成23年7月16日(土)～11月6日(日)

休館日:月曜日(7月18日・9月19日・10月中の月曜日は開館、7月19日・9月20日は休館)

開館時間:午前10時～午後6時(特別展開催中の金・土曜日は夜間開館午後8時まで)

入場は閉館の30分前まで

会 場:兵庫県立美術館 1階・2階 常設展示室

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

主 催:兵庫県立美術館

観覧料金:一般 500(400) 300 円 / 大学生 400(320) 240 円 / 高校生・65歳以上 250(200) 150 円
()内は20名以上の団体割引料金 内は特別展とのセット割引料金
中学生以下、障害のある方とその介護の方(1名)は無料

関連事業

アーティストトーク

講師:ヤノベケンジ氏

日時:9月11日(日)14:00~15:30

場所:ミュージアムホール

聴講無料(定員先着 250名)

学芸員によるギャラリートーク

「新収蔵品について」

日時:10月8日(土)16:00~16:45

場所:1階常設展示室

要観覧券・定員なし

ミュージアムボランティアによるガイドツアー

会期中の毎週金・土・日 13:00~13:45

エントランスに集合

1階・2階・屋外のいずれかで開催 1階・2階の場合は要観覧券

お問い合わせ先:兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1

ホームページ <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

【取材・写真提供に関すること】 営業・広報グループ

TEL:078-262-0905(直) FAX:078-262-0903

【企画内容に関すること】 企画担当学芸員 岡本 弘毅、相良 周作

【美術の中のかたち - 榎本佳子展 企画内容に関すること】 企画担当学芸員 遊免 寛子、西田 桐子

TEL:078-262-0909(直) FAX:078-262-0913

展示概要

1 階

・展示室1 「はじめまして～新収蔵品紹介」(出品予定点数 約10点)

ポラロイド写真を用いた澤田知子の初期代表作など今年新たに館蔵品に加わった作品の中から目玉作品をご披露します。なかでもヤノベケンジの《Ferris Wheel》は、チェルノブイリ原発事故を主題とする一連のヤノベ作品の中でもモニュメンタルな存在感を示し、必見です。



ヤノベケンジ 《FERRIS WHEEL》 2007 年
Photo by Seiji Toyonaga ©Kenji Yanobe Photo courtesy
YAMAMOTO GENDAI



澤田知子 《ID400》 1998 年(部分)

・展示室2 「ご対面 ～新収蔵品紹介」(出品予定点数 約25点)

新収蔵品と旧館蔵品が展示室で顔合わせ。この部屋では、神戸風景を刻み続けた木版画家・川西祐三郎の代表作を父である川西英の戦前作品と、神戸出身の幻想画家・山本六三の銅版画を 19 世紀末象徴主義の巨匠マックス・クリンガーの作品とそれぞれ見比べていただきます。



山本六三 《ペレアスとメリザンド》 1978 年



川西祐三郎 《神戸大橋》 1971 年

・展示室3 「ご対面 ～新収蔵品紹介」(出品予定点数 約40点)

新収蔵品と旧館蔵品が展示室で顔合わせ。この部屋では、現代を代表する具象彫刻家・舟越桂の傑作を父である舟越保武の名作と見比べていただくほか、新たにコレクションに加わった小出櫓重、桑山忠明、横尾忠則らの作品を既存の館蔵作品と並べて展示します。



舟越桂《消えない水滴》 1986 年



小出櫓重《喇叭のある静物》 1924 年

・展示室4 小企画「美術の中のかたち」(出品予定点数約 20点)

別紙のプレスリリースをご参照ください。

・展示室5 「コレクション名品選～海外の近現代彫刻」/「安藤忠雄コーナー」(出品予定点数 約9点)

兵庫県立美術館の彫刻コレクションから、海外の作品を中心に紹介します。また、当館設計者である世界的な建築家・安藤忠雄による震災復興プロジェクトを紹介するコーナーも併設しています。



ロダン(オルフェウス) 1892年

2階

・小磯良平記念室(出品予定点数 約19点)

名作「T嬢の像」(斉唱)をはじめ小磯芸術の魅力をご堪能いただけます。



小磯良平(T嬢の像) 1926年

・金山平三記念室(出品予定点数 約18点)

「大石田の最上川」など格調高い風景画を残した金山平三の歩みを紹介します。



金山平三(大石田の最上川) 1948年頃

・展示室6 「日本近代絵画名品選」(出品予定点数 約25点)

明治から昭和中期にいたるまでの洋画の流れを代表的な館蔵品によって紹介するとともに、日本画の名品を前期と後期に分けてご覧いただけます。

前期:7月16日～9月11日

後期:9月13日～11月6日



神中糸子(桃太郎)



村上華岳(観世菩薩施無畏印像) 1928年
(9月11日までの展示)

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データのうち、キャプションが墨文字のものを媒体掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

2011 年度コレクション展

小企画

美術の中のかたち 手で見る造形 榎本佳子展

やきもの^{へんげ}の変化



榎本佳子《山ノ壺》2005年

会 期:平成 23 年 7 月 16 日(土)~11 月 6 日(日)

休館日:月曜日 (7 月 18 日・9 月 19 日・10 月中の月曜日は開館、7 月 19 日・9 月 20 日は休館)

会 場:兵庫県立美術館 1 階 常設展示室4

主 催:兵庫県立美術館

後 援:兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、兵庫県社会福祉協議会、神戸市社会福祉協議会

平成元(1989)年度より開催している「美術の中のかたち - 手で見る造形」展は、従来視覚のみに偏っていた美術鑑賞の機会を、視覚障害者の方にも提供し、あわせて作品に手で触れることで、健常者の方にも視覚以外の感覚器官を通じた美術鑑賞のあり方を探っていただくという試みで、今年で 22 回目を迎えます。

今回は、陶芸の中に新たな魅力を生み出す若手作家の榎本佳子氏(ますもと・けいこ 1982 年 兵庫県生まれ)を迎え、「やきもの^{へんげ}の変化」と題して、展覧会を開催します。

触れるということが作品鑑賞の大きな魅力であり、日常生活の中で発展してきた陶芸ですが、一度、美術館・博物館の所蔵品になれば、保存・保管の観点から決して触れることができない美術品へと姿を変えます。今回は、美術館で陶芸作品に触れることで、新たな鑑賞の可能性を探ります。

出品予定点数 約 20 点

展覧会のコンセプト

この度の「美術の中のかたち」展では、陶芸作品の手触りと立体作品としての形の面白さを味わっていただくことを目的に、陶を用いたユニークな作品で知られる新進気鋭の作家・榎本佳子氏に制作を依頼しました。榎本氏は、皿や壺等の典型的な「やきもの」を独自に解釈し、見る者に驚きと笑いを与えるユニークな作品を制作しています。皿に描かれた日本地図が途中から立体的に飛び出していたり、一見、山水の絵付けの壺に見えるやきものの反対側には猿の親子がいたり、その作品には、やきものへの問題意識や立体としての面白さが現れています。

今回、榎本氏は、美術館の中で、敢えて触れることの出来ない美術品としてのやきものから着想を得た新作を生み出します。兵庫陶芸美術館所蔵の兵庫の古陶をモデルに、それを材料から技法まで正確に真似た作品＝「写し」と、そこから着想を得て新たに生み出された新作＝「写し」が同列で並ぶ展示室では、美術作品が成立するまでの契機と過程に思いを馳せていただくことができるでしょう。各地の有名な窯場で焼かれたやきものを模倣した「写し」の作品は、陶芸の発展に欠かせないものですが、一方では、文様の意味や形態を曖昧に解釈して制作した現存作品も多く、オリジナルの作品に比べ価値の低いものとして捉えられる傾向にあります。しかし、見方を変えると、その曖昧さが味わいになり魅力となっているのも事実です。日用品として生まれたやきものがいつしか美術品となり、その美術品から現代の立体作品が生まれる今回の展覧会は、来館者に、やきものの定義を問いかけます。

様々に^{へんげ}変化したやきものの手触りに意識を集中することで、新たな魅力をひとつでも多く発見いただければ幸いです。

作家のことば

使わないで飾るだけの器なら、器の形をしてなくてもいいんじゃないのか。

装飾モチーフと器との関係をいじる事で、器と呼べるような呼べないようなものにしてしまおう。

工芸というのは、基本的には日常で使用されるものであり、手に持って使われるものです。美術館という所は優れた美術作品の保存を目的としていますが、収蔵されている工芸作品は元々は使われていたものです。実際には破損の恐れが大きい実物を手に取る事は難しいですが、それらを元に写しを作ります。

器の表面のわずかな凹凸から施された紋様を読み取る事ができますが、少し難しいかもしれません。見ないで触ったら、模様を頭の中で想像すると思います。

私の作品を触って、装飾されたモチーフの主張を感じ取ってみてください。

器と装飾モチーフの関係や、これは器とっていいのだろうか？器って定義なに？と考えを巡らせてもらえればと思います。



榎本佳子《地図／皿》2010年 撮影：市川靖司（参考図版）



榎本佳子《壺／猿》2008年

榎本佳子(ますもと・けいこ)略歴

1982年 兵庫県生まれ

2007年 京都市立芸術大学大学院修士課程陶磁器専攻修了

2008年 「東京ミッドタウンアワードアートコンペ」にて準グランプリ(グランプリ該当無)
個展(石田大成社ホール 京都)

2009年 「トーキョーワンダーウォール」(東京都現代美術館)にて立体・インスタレーション部門大賞を受賞
グループ展「現代工芸への視点 装飾の力」(東京国立近代美術館 工芸館)

2010年 「榎本佳子展 パノラマ 陶の風景」(INAX ガレリアセラミカ 東京、INAX ライブミュージアム 愛知)

「TKG Projects #1」(TKG エディションズ 京都)

グループ展「mélange 龍門藍・榎本佳子展」(imura art gallery 京都)

関連事業

アーティストトーク

講師:榎本佳子氏

日時:7月31日(日)14:00-15:30

場所:レクチャールーム

聴講無料(定員先着 100名)

ワークショップ

講師:榎本佳子氏

日時:10月1日(土)15:00-17:00

場所:展示室+美術館建築内

「芸術の館友の会」共催(定員 30名)(要申込・有料)

こどものためのワークショップ

講師:榎本佳子氏

日時:10月22日(土)10:30-15:30

場所:展示室+アトリエ2

小・中学生と保護者(定員 30名)(要申込・有料)

お問い合わせ:TEL:078-262-0908 こどものイベント係

お問い合わせ先:兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1

ホームページ <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

【取材・写真提供に関すること】 営業・広報グループ

TEL:078-262-0905(直) FAX:078-262-0903

【企画内容に関すること】 企画担当学芸員 遊免 寛子、西田 桐子

TEL:078-262-0909(直) FAX:078-262-0913

ご希望の写真の番号に をつけてください。後日お送りいたします。また、読者・視聴者プレゼント用招待券(最大10組20名まで)もご用意しております。ご希望の場合は、ご請求ください。

番号	作家名・作品名・制作年・素材・クレジット等
1	榎本佳子 (山 / 壺) 2005 年
2	榎本佳子 (地図 / 皿) 2010 年 撮影: 市川靖司 (参考図版)
3	榎本佳子 (壺 / 猿) 2008 年
4	ヤノベケンジ (FERRIS WHEEL) 2007 年 Photo by Seiji Toyonaga ©Kenji Yanobe Photo courtesy YAMAMOTO GENDAI
5	澤田知子 (ID400) 1998 年 (部分)
6	山本六三 (ペレアスとメリザンド) 1978 年
7	川西祐三郎 (神戸大橋) 1971 年
8	舟越桂 (消えない水滴) 1986 年
9	小出楯重 (喇叭のある静物) 1924 年
10	ロダン (オルフェウス) 1892 年
11	小磯良平 (T 嬢の像) 1926 年
12	金山平三 (大石田の最上川) 1948 年頃
13	神中糸子 (桃太郎)
14	村上華岳 (観世音菩薩施無畏印像) 1928 年 (9月11日までの展示)

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		F A X	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日			
写真到着日希望			
読者・視聴者プレゼント用招待券 (最大10組20名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)	組	名	希望

写真データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできませんので、ご了承ください。
 本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD) などを、下記宛にお送りくださいますようお願い申し上げます。
 本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。